

2021年9月野菜概況

北日本日本海側は多照、少雨。東日本太平洋側と西日本は寡照だった。

9月は上旬から気温が大きく下がり、量販店では秋商材への移行が進んだ。この気温低下で関東近県産の果菜類や葉菜類で生育が伸び悩む面もあった。中旬には台風14号が九州から東海地域へ進むも主要品目への被害はなし。彼岸連休前までは野菜全般に不足感や連休前の需要増から高値推移となったが、連休後は好天での出回り量増加や高値反動による需要減退で多くの品目で相場が下落した。9月末の台風16号も大きな被害はなかった。9月の野菜総入荷量は115,662t(前年比96%)で平年より1割近く少なく、価格285円(114%)は平年より1割高い。金額は32,964百万円(109%)で平年並み。

だいこんは北海道産が高温・干ばつ影響あり。量販店での北海道フェアや特売があり荷動きは比較的良好だった。総入荷量は平年より1割以上少なく、価格109円(102%)は平年並み。**にんじん**は北海道産で前月までの高気温や干ばつによる生育停滞が解消に向かい、当初の小玉傾向から肥大が進んで増量。荷動き鈍化して相場は緩やかな下降が続いた。総入荷量は平年より1割多く、価格111円(96%)は平年より2割以上安い。

はくさいは長野産が8月中旬の大雨を受けての病害発生により少ない出回りの中、上旬は気温低下による需要増から不足感高まり相場が急騰した。中旬には加工需要でも不足してさらに引合い強まり相場高騰するも、量販店需要は高値により減退して下旬は荷動きが鈍かった。総入荷量は平年より2割近く少なく、価格150円(156%)は平年の5割高。**キャベツ**は群馬産が生育順調も、上中旬は降雨の影響で減少する場面あり引合いは強かった。下旬には単価高から引合い弱まり荷動き鈍化した。総入荷量は平年並み、価格107円(89%)は平年より1割以上高い。**ほうれんそう**は前月中旬からの雨や低温の影響により上旬は数量少なく高値推移。中旬からは高値反動で需要減退し、関東平坦地からの出荷も増えて相場は下落した。総入荷量は平年よりやや多く、価格808円(87%)は平年並み。**ねぎ**は北海道・青森産を中心に生育順調だが道産は細物傾向。上旬は気温低下により需要はますますあり荷動き良好。中旬からは気温上昇により需要減退し荷動き鈍化。総入荷量は平年並み、価格320円(94%)は平年の1割安。**レタス**は長野産が8月中旬の大雨後に病害発生や下葉の傷みが多発して数量大幅減。9月上旬には雹害もあり不足感強まって相場は急騰した。中旬からは数量漸増や高値反動により需要が減退して相場は下落続き。総入荷量は平年より2割以上少なく、価格263円(260%)は平年の7割高。

きゅうりは東北産が低温や曇雨天の影響から生育が停滞して減少し、不足感から高値推移。中旬からは関東産が増量傾向となり相場は下落した。総入荷量は平年より1割近く少なく、価格362円(105%)は平年の1割高。**なす類**は群馬・栃木・茨城産で気温低下と天候不良により上旬から数量減少。不足感強く相場が高騰した。下旬には高値反動での需要減や天候回復による数量増で荷動き鈍化し、相場は下落した。総入荷量は平年より1割以上少なく、価格404円(126%)は平年の1割高。**トマト**は北海道・東北産が8月下旬からの曇雨天・低温により着色鈍く、終盤を迎えることもあり数量減。中旬にかけて引合い強まり相場は上昇した。下旬は千葉・愛知産の増量と高値反動により引合い弱まり相場下落。総入荷量は平年より1割以上少なく、価格489円(131%)は平年より2割近く高い。**ピーマン**は上・中旬は他の果菜類等が少ない中で岩手・福島産が安定的に入荷して需要あり荷動き良好。下旬は東北産がピーク過ぎるも残量あり、茨城産の増量もあって荷動きは鈍化した。総入荷量は平年より1割近く多く、価格417円(97%)は平年よりやや高い。

ばれいしょ類は北海道産が高温・干ばつにより地上部の倒伏や葉枯れが早くかなりの小玉傾向。入荷量少なく不足感から高値続きだったが、月末には高値反動により引合いが落ち着いた。総入荷量は平年より1割以上少なく、価格193円(164%)は平年の5割高。**たまねぎ**は北海道産が高温・干ばつの影響から小玉傾向。大玉が少ないために小玉の引合いも強まり高値が続いたが、彼岸連休後は他野菜の増量もあり需要減退して相場は下落した。総入荷量は平年並み、価格109円(131%)は平年より1割以上高い。

【輸入野菜】ばれいしょは輸入時期が国産の端境となる2~7月に限定されていたが、前年から通年輸入が解禁された。本年は国産が不作なことからアメリカ産の輸入量がゼロだった前年比で純増となった。ジャンボピーマンは前年にはコロナ禍で外食需要が減退していたことや韓国産が天候不順で不作により少なかったことから、前年比で大幅増。しょうがは前年にコロナ禍で外食需要が減退したことや中国・タイ産が天候不順で減産となっていたため、前年比で増。一方、キャベツはコロナ禍で外食需要が減退する中で国産が安値となったため、中国産を中心に前年比大幅減。ねぎもコロナ禍で外食需要が減退する中で国産が安価であることや港湾作業の停滞、中国産の作付減等により前年比大幅減。